



校種間連携で " つながる学び "

南丹美術工芸パートナーズスクール事業

南丹地区幼稚園・小学校・中学校・高等学校等連絡協議会総会で実践発表

平成30年5月28日(月)、南丹地区幼稚園・小学校・中学校・高等学校等連絡協議会総会が、口丹波勤労者福祉会館にて開催されました。

この中で、南丹美術工芸パートナーズスクール事業を通じた校種間連携の取組と、学びの連続性について実践発表が行なわれました。

始めに、亀岡高校普通科美術工芸専攻 木村和正 教諭から、南丹美術工芸パートナーズスクール事業について、文化芸術面での高校の活性化と地域全体の教育力の充実を図るために、平成19年度から南丹美術工芸教育展とセットで始められたことや、12年間の取組内容について紹介がありました。

よくある校種間連携では、高校から小学校への一方通行の享受の流れになり、高校には教育的成果はあまり残らないことが多い中で、相互に教育的成果がある「Win-Win」の関係でパートナーになることが重要であるとの創設当時の思いが説明されました。

小学校から見た教育的効果について



次に、平成29・30年度に美術工芸パートナーズスクール事業を実施している亀岡市立千代川小学校 松岡里佳 教諭から、平成30年度の取組が報告されました。

今年度は「愛鳥週間ポスター」に取り組み、4年生3~4人のグループに高校生が一人ずつ入る形で実施しました。担当する生徒を決めていたことで、「小学生はすぐに質問し、またアドバイスを受けてスムーズに作業を進めることができた。」といえます。

また、ポスターを描くにあたり「楽しんで」「こだわって」「よく見て」と気をつける点について説明を受けた後、児童は担当する高校生がスケッチブックに描いてきてくれた鳥の絵を見せてもらい、「こんな風に描いてみたら。」と目の前でスケッチブックに描いてもらっていました。

松岡教諭は、「羽の重なり方や羽毛の描き方などを丁寧に教わり、普段、集中して描くことが苦手な児童も高校生に励ましやアドバイスを受け、これまでの図工の学習や普段の学習に向かう姿と比べると、自分の作品を好きになり、絵を描くことを楽しんでいる姿が見られた。」と、高校生とのコミュニケーションを通じて、子どもたちの意欲・関心が高まっていることを報告されました。



平成26年度
曾我部小学校×亀岡高校美術・工芸専攻



平成29年度
千代川小学校×亀岡高校美術・工芸専攻



平成30年度
千代川小学校×亀岡高校美術・工芸専攻



平成30年度
千代川小学校×亀岡高校美術・工芸専攻



平成30年度
千代川小学校×亀岡高校美術・工芸専攻

高校生へのインタビュー

平成30年度千代川小学校4年生に指導したのは、亀岡高校 普通科美術・工芸専攻の1年生でした。実践発表では、高校に入学して間もない彼らへのインタビュー映像が紹介されました。



山田小夏さん (美術・工芸専攻 1年生)

「小学生に説明すること、教えることの難しさを実感しました。教えたことを理解して楽しく絵を描いてくれて、とても嬉しかったです。」



安富優音さん (美術・工芸専攻 1年生)

「初めは乗り気じゃなかったけど、やってみたら楽しかった。反省点は、教えるだけでなくもっと褒めてあげられたら良かった。」



山本杏菜さん (美術・工芸専攻 1年生)

「自分のスケッチブックに簡単に描いて教えていくと、たいいてい理解してくれました。自分自身も勉強になり楽しめました。」



小柴 剛さん (美術・工芸専攻 1年生)

「『嫌い』と言っていた小学生も積極的に取り組んでくれて嬉しかった。ここまで教えたら難しいか、そのラインの見極めが難しかった。」

高校生の多くが児童に必要とされていることを実感し、教えること自体が喜び・自信になること、また伝え方に工夫や模索をしたこと、教えるレベルに難しさを感じていたことなど、この事業が高校生の様々な学びに繋がっている姿が見られました。

高校から見た教育的効果について

美術・工芸専攻の生徒は、「発表する力」や「プレゼン能力」が高いという評価を受けています。

木村教諭からは、「生徒たちは児童に絵を描く楽しさを伝え、色の塗り方や描き方などを一緒に考えサポートし、途中であきらめそうになる気持ちを支える。パートナースクールを通じて得た経験が生徒の自信や自己肯定感、そして『表現する力』に繋がっていると実感している。」と話していただきました。

「新しい学力の概念」にも通じる取組

芸術科美術を教えることは単に絵を描く技術だけでなく、何を描くか、どんな方法で描くかを模索・試行錯誤を重ねて制作することが非常に重要です。木村教諭は、「高校生には知識を相互に関連付けてより深く理解し、情報を精査して考えを形成する。問題を見出して解決策を考え、思いや考えを基に創造に向かうプロセスを重視した『主体的・対話的で深い学び』が求められている。美術工芸パートナースクール事業は『絵を教えることを通じた主体的で対話的な深い学びにつながる取組』である。」と話していただきました。

最後に、「11年前に始まったこの事業は、新学習指導要領の『新しい学力の概念』にも通じるところがあり、これから必要とされる新しい『学び』のスタイルを先行した取組ではないでしょうか。」とこの事業の意義をまとめていただきました。

南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

